

機関番号：12601

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2007～2010

課題番号：19520559

研究課題名（和文） 将軍父子上洛と将軍宣下の政治社会史的研究

研究課題名（英文） Research on the SHOGUN TOKUGAWA HIDETADA and IEMITSU, Leaving for KYOTO, Coronation, and the Documents from a view of Political Sociology

研究代表者

山口 和夫（YMAGUCHI KAZUO）

東京大学・史料編纂所・准教授

研究者番号：00239881

研究成果の概要（和文）：元和9年（1623）の徳川秀忠・家光父子上洛と将軍職交代とが同時代社会へ与えた影響を究明するため、史料調査・収集・整理・検討を重ねた。父子上洛を迎え将軍宣下もあった京都等の公家・寺家・社家の諸記録、父子に供奉した大名上杉家の日記・帳簿、各種系譜史料等を分析した結果、沿道と洛中洛外地域社会で展開された儀礼や交流、上洛に動員された上杉家中の費用負担、公家・地下官人・大名・旗本等の人事につき、広範な事例を把握・提示することができた。また、将軍秀忠から同家光への大名命名（一字書出發給）主体の移動、朝幕藩相互間の伝達回路につき、事例を解明・蓄積した。大名の官位が、江戸幕府により決定され、将軍参内行列供奉の資格・序列として機能することも検出した。

研究成果の概要（英文）：In 1623 (Genna 9), Tokugawa Hidetada and Iemitsu, father and son, went to Kyoto, followed by many groups, and changed Shogun. To investigate their influence on society, we examined, collected and analyzed various historical materials. By the diaries of court nobles, temples, shrines, documents of Uesugi family, and genealogy, we have elucidated ceremonies and exchanges that were deployed in communities along the road and around Kyoto, Uesugi family travel expense, and personnel informations of the year 1623.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2008年度	600,000	180,000	780,000
2009年度	600,000	180,000	780,000
2010年度	700,000	210,000	920,000
総計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：日本史・近世史・政治社会史・史料学・将軍・大名・洛中洛外・朝廷

1. 研究開始当初の背景

|

(1) 課題申請時の学術的状況 日本近世の将軍家上洛のうち、徳川家康及び元和5年(1619)までの徳川秀忠については公刊史料集『大日本史料』第十二編の出版により、幕末期の徳川家茂・慶喜については「大日本維新史料稿本」により、関係史料が相当程度学界で共有され、事実関係の解明もある程度は進んでいた。

本研究が対象とする元和9年の事例に関する学界での研究状況は、江戸時代前期に編まれた秀忠の伝記史料「東武実録」、江戸時代後期に編纂された秀忠・家光の「実紀」(『徳川実紀』)、同時代人の文書・日記等の史料が用いられ、江戸時代前期の幕府政治史や秀忠・家光の伝記の一部として叙述される傾向にあった。

江戸時代前期政治史研究では、元和2年(1616)の大御所家康の死去から将軍秀忠の親政が始まり、同9年の家光の将軍襲職後も寛永9年(1632)まで大御所秀忠の統治が続くという理解が通説となっていたものの、元和9年までの秀忠将軍時代とそれ以降の秀忠大御所時代に研究が二分される傾向もあった(高木昭作氏『日本近世国家史の研究』岩波書店、1990年、藤井讓治氏『江戸幕府老中制形成過程の研究』校倉書房、1990年等)。

(2) 課題申請時の意図・動機 上記傾向を解消すべく、秀忠統治期という視点で元和9年の将軍職交替前後の史料を系統的に収集・分析・検証し、基礎的事実を確定しようと意図した。

2. 研究の目的

(1) 目的 徳川将軍の上洛という日本近世史上、幕藩初期と幕末期に集中した大規模で特色ある事件のうち、元和9年(1623)の事例に時期・対象を特定し、4年間の集中的・系

統的な共同史料調査と研究により、将軍秀忠・家光父子の上洛と将軍職交代の同時代社会への影響に関する基礎的事実の解明・把握・復元を期した。

(2) 具体的な論点 当初から膨大である事が予見された関連事象中、検証・究明すべき具体的な論点を、以下の様に整理・限定した。

① 上洛供奉に動員された大名の対応、家中・領内への負担転嫁、沿道・滞在施設整備の実態究明。

② 沿道や洛中洛外地域社会で展開された儀礼や交流の研究。

③ 江戸幕府(将軍家)・朝廷・藩(大名家)の間で授受された文書等の史料学的・古文書学的研究と伝達回路の復元。

3. 研究の方法

主題関連史料を調査・収集(撮影・複写)・分析し、基礎的事実を確定した。あわせて基幹的史料のテキストデータを作成・蓄積した。

調査対象は、財団法人斎藤報恩会(仙台市内)、国立歴史民俗博物館、国立公文書館、宮内庁書陵部、東京都立中央図書館、東京国立博物館、早稲田大学図書館、名古屋市蓬左文庫、京都府立総合資料館、岡山県立図書館、山口県文書館、熊本市内個人3件、熊本市立熊本博物館等で、研究代表者・研究分担者の所属機関、東京大学史料編纂所の架蔵史料・図書・マイクロフィルム等も活用した。

データ整理・諸表作成等には、若手研究者の協力も得た。

4. 研究成果

(1) 期間中に得られた成果は、逐次様々に発表した。

(2) 最終年度に研究代表者・研究分担者間

で確認・協議し、知見・基礎史料（素材）・人物史情報（データ）等の原稿・諸表等を分担執筆して取り纏め、研究成果報告書を編集・発行した（『将軍父子上洛と将軍宣下の政治社会史的研究』東京大学史料編纂所研究成果報告 2010-2、2011年3月、全220頁）。同書には、研究協力者も寄稿した。

（3）基幹的史料の研究と基礎的事実解明等の主要成果は、次の通りである。

①将軍家催事と幕藩関係：正月に江戸城内で将軍秀忠が在府大名等を召集した茶会記の全文翻刻と解説（研究代表者山口）。登城・相伴命令を下達した幕府年寄奉書（宗義成・山内忠義・鍋島元茂宛）等を併用した史料研究の結果、年紀（元和9年）・亭主（将軍秀忠）等を特定でき、江戸時代前期幕藩関係や茶道史を再構成する素材を増した。

②大名元服・改名・官位叙任事例の解明：出羽米沢城主上杉定勝・徳島城主蜂須賀忠英・鳥取城主池田光政について関連史料を検討・翻刻・解説した（山口）。3件の年月日・経過・主体・授受文書の流れを解いて、将軍秀忠から同家光への大名命名（一字書出發給）主体の移動を明らかにし、幕藩関係・朝幕藩関係・人物史（伝記）の学説上の混乱・不備を補訂した。

③洛中洛外での儀礼・交流の解明：秀忠・家光上洛を迎えた公家・寺家・社家等の各種記録（日記）の解説と関連記事の抽出・翻刻により、広範な事例・諸関係を把握・提示することができた（研究分担者及川）。今回初めて翻刻・紹介した日記も含み、江戸時代前期の研究に裨益する成果である。

④上洛供奉に動員された大名の対応、家中への負担転嫁、沿道等での儀礼・交流事例の解明：上杉定勝主従の「元和九年上洛記」（上洛・滞京・江戸帰府日記）を翻刻・解説し、同家中の上洛出費一覧も関連史料から把握・整理

した（山口・研究協力者）。将軍家や他大名家等の事例については、研究期間中いくつかの素材・データを得るに留まり、課題として残った。

⑤人物史情報の把握：各種系譜史料（公家華族提出諸家譜、『諸家伝』、『地下家伝』、『寛永諸家系図伝』、『寛政重修諸家譜』、『断家譜』、『譜牒余録』）から元和9年の公家・地下官人・大名・旗本等主要領主階層人物史情報を悉皆抽出し、原文テキスト摘記のデータ諸表を作成した（山口・研究協力者）。将軍父子上洛と将軍宣下があった同年一年間分の人物史情報解明の基礎・前提となる。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計13件）

①山口和夫、「家光公元和年中御茶事記」、東京大学史料編纂所研究成果報告 2010-2、3-12頁、2011年、査読無、

②山口和夫、将軍権力と大名の元服・改名・官位叙任 - 上杉定勝・蜂須賀忠英・池田光政について -、東京大学史料編纂所研究成果報告 2010-2、13-23頁、2011年、査読無、

③及川亘、元和九年将軍父子上洛関係記録記事抄、東京大学史料編纂所研究成果報告 2010-2、24-87頁、2011年、査読無、

④山口和夫・山本英貴、上杉定勝主従と「元和九年上洛記」、東京大学史料編纂所研究成果報告 2010-2、88-159頁、2011年、査読無、

⑤山本英貴、元和九年上杉定勝の上洛と交際、東京大学史料編纂所研究成果報告 2010-2、160-173頁、2011年、査読無、

⑥山口和夫、元和九年公家・地下官人・大名・旗本等諸家人物史データ諸表、東京大学史料編纂所研究成果報告 2010-2、174-220頁、

2011年、査読無、

⑦山口和夫、近世の公家身分 - 近世公家衆の人・家・身分 -、堀新・深谷克己編『権威と上昇願望』（吉川弘文館）、江戸の人と身分 3、93 - 124 頁、2010年、査読無、

⑧及川亘、毛利家文庫「遠用物」について、東京大学史料編纂所研究成果報告、2009-5、84 - 88 頁、2010年、査読無

⑨及川亘、東京大学史料編纂所所蔵「芝大宮町文書」の町入用関係史料について、東京大学史料編纂所研究紀要、19、94-116 頁、2009年、査読無

⑩山口和夫、江戸時代「洛中洛外図屏風」の景観・制作年代についての一考察、東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター通信、43、5-9 頁、2008年、査読無

〔学会発表〕（計4件）

①宮崎勝美、毛利家臣堅田元慶と同家伝来史料、東京大学史料編纂所第259回研究発表会、2010年3月15日、東京大学

②山口和夫、近世朝廷における天皇家の家職、近世の天皇・朝廷研究第3回大会シンポジウム、2009年9月12日、学習院大学

③山口和夫、「公武法制応勅十八箇条」の検討、朝幕研究会、2007年11月29日、学習院大学

④及川亘、町の経済—上京芝大宮町の算用帳、中世都市・流通史懇話会、2007年8月29日、若狭ふれあいセンター

〔図書〕（計9件）

①山口和夫・及川亘共著、東京大学史料編纂所研究成果報告2010-2 将軍父子上洛と将軍宣下の政治社会史的研究、2011年、220 頁

②及川亘（高橋慎一郎他と共著）、東京大学出版会、中世の都市—史料の魅力、日本とヨーロッパ、2009年、183-214 頁

③山口和夫（加藤友康他と共著）、吉川

弘文館、年中行事大辞典、2009年、別刷図版解説武家年中行事全8 頁

④山口和夫（藤田覚他と共著）、山川出版社、史料を読み解く3 近世の政治と外交、2009年、57-86 頁

⑤宮崎勝美（単著）、山川出版社、大名屋敷と江戸遺跡、2008年、全101 頁

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.hi.u-tokyo.ac.jp/collaboration/19520559.html>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

山口 和夫 (YAMAGUCHI KAZUO)
東京大学・史料編纂所・准教授
研究者番号：00239881

(2) 研究分担者（2名）

及川 亘 (OIKAWA WATARU)
東京大学・史料編纂所・助教
研究者番号：70282530

宮崎 勝美 (MIYAZAKI KATSUMI) (2009年度末まで)

東京大学・史料編纂所・教授 (2009年度末退職)

研究者番号：60143533

(3) 連携研究者（0名）